



お米やライム、柿なども！たくさんの  
寄付品で自治会バザーも盛況



「周南地区文化祭」掲示をリニューアル



戦後80年展示&コンサート



「開会セレモニー」  
「常代祭囃子」の皆さん  
の力強い演奏で幕を開けた開会セレモニー。今年の特別展示にちなみ、ロビー設置の「松本ピアノ」(平成26、29年に地域住民で修



スタンブリー景品  
どれにする？



消防団第4分団もPR！

【特別展示】  
ロビーでは、戦後80年と  
常代出身の松本ピアノ創  
業者・松本新吉氏の生誕  
160周年にスポットを当  
りました。

【開会セレモニー】  
「常代祭囃子」の皆さん  
の力強い演奏で幕を開けた開会セレモニー。今年の特別展示にちなみ、ロビー設置の「松本ピアノ」(平成26、29年に地域住民で修



周南小合唱部の皆さん



あそびがいろいろ！



星野富弘氏を偲ぶ展示&朗読会



52年目もいろいろな工夫  
をしながら進めてきた周南  
地区文化祭。次回も「みんな  
集まれ〜」



奥：96歳作の貝のオブジェ  
手前：94歳作の彫刻(スジャータ像)

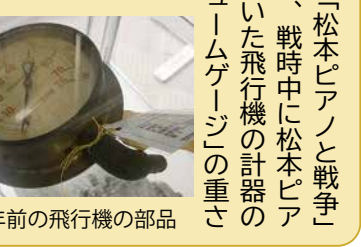
の、合唱や地域の伝統芸能の披露(宮下・六手・馬登)が行われました。  
縁日と子どもの遊びコーナー(かずさサステナブルリンク、将棋(ねんりん)、写仏やイラストなど大人も子どもも参加できる体験も企画・実施されました。



将棋で面白！



今年は特別展示「松本ピアノと戦争」  
の展示物の中から、戦時中に松本ピアノ工場で修理していた飛行機の計器の一つである「バキュームゲージ」の重さを予想するという  
超難問！  
一番近かった人は1145(+31)gでした！  
有効応募総数51通の中から正解に近かったら5名の皆様に景品が送られました。おめでとうございます！



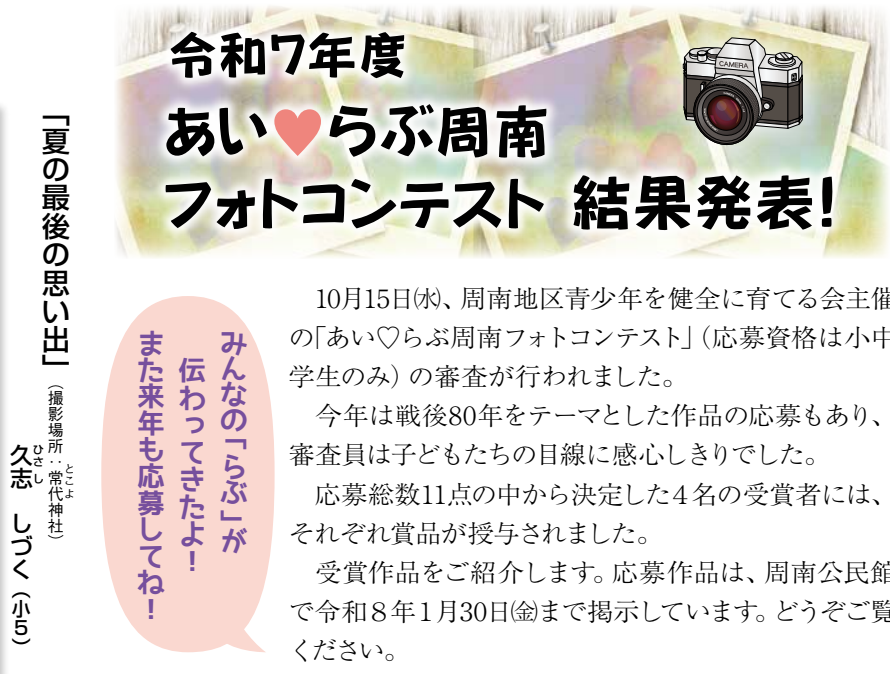
令和2年からの全国的な  
コロナ禍の影響で、全国の  
様々な行事が中止となりました。宮下春日神社例大祭も例外ではなく、令和元年を最後に子どもたちが祭囃子を奏でながら宮下を廻る「山車の引廻し」と夜の部を取りやめになってしまいました。  
令和5年にコロナが第5類になり、各地でお祭りが復活してきました。宮下の祭囃子もこの年から「祭囃子保存会」のメンバーが子どもたちを集めて練習した結果、山車の引廻しができるようになりました。最初は子どもが集まるのか心配でしたが、今年度の例大祭では、実行委員会の協力を得て夜の部の抽選会も復活できたのです。以前のようなカラオケなどはなかったですが、最初の一步です。  
今年の祭囃子の練習に集まった子どもはなんと30名に達するまで増えました。祭囃子保存会にも多くの方が入会してくれました。今の子供も大人になり、保存会に入り、次の子どもたちに教えるようになってゆく引き継いでいくことを信じています。

底野の麓  
例大祭 復活  
栗原 清志(宮下)



★公民館長賞 (撮影場所：常代神社)

「おはよしの舞台から見た風景」  
大河原 凜(小4)



★特別賞 (撮影場所：市道八重原線)

「黄金色に光った田んぼは周南の宝石」  
丸山 ひなた(小6)



★特別賞 (撮影場所：大山野)

「いつもおまいりする神社 大山野公民館」  
長島 宗太郎(小4)



100名以上が連に参加！  
第27回君津市民ふれあい祭り・  
いやさか君津踊り  
周南地区青少年を健全に育てる会



「読んでみませう」  
「やってみなさい」の  
を守る64の防災活動  
小学生的体験レポ  
ト+専門家のアドバイス  
「関西大学初等部6  
年生(第一期生)・書  
さくら 2024」

いつ起こるか分からない自然災害。近年も大雨や地震による被害が全国各地で起きています。災害が発生した時、速やかにいのちを守る行動を取るためには、日頃からの備えや防災意識を高めておくことが必要です。  
この本の特徴は、大阪府北部地震での経験とともに、関西大学初等部の子どもたちが、自宅の地震対策や身近なもので作れる防災グッズの作り方など、小学生から

でもできる災害対策を紹介しているということ。また地域でのようが全国各地で行われている、災害時の避難所までのルートの確認など、防災のために知っておくべきことを実際に体験・調査しています。専門家に今より高い防災意識を持つてほしい。というメッセージが込められた1冊です。  
この本をきっかけに、家族で防災について話し合ってみませんか。

すなみ短歌同好会(十二月分)

轉すきに雨細く降る日に見送りぬ若く逝きたる農家の男を  
はらはらと落葉散る庭掃き寄ることなく愛でる霜月の頃  
子望月アラビアンナイトの夕暮れは魔法の絨毯浜風にそよぐ  
石井 洋子

一般応募作品

この親切忘れな  
コロナが下火になって妹と横浜で会うことになり、バスを下りたらタクシーでホテルに行けると思い込んでいました。十年ぶりの一人お出かけ。ところが終点で下車してここはごなかの、見渡してもバスも乗客もだれ一人いなくなっている。私一人何とも言いえない心細さ。先定で行って見ようと思ひ、そこでやうと四人の女性に逢ひ、「済みません、タクシーの場所を探しているのですが」と聞く、「私達もこの者ではないので、私達が探して来てあげますからここを動かないで」と。待つ間もなく「ここはさうの三階ですからエレベーターを二つ下りて今貴女がいる場所の方に向かいていくと案内があります。気を付けて」と。ありがとうございます。世の中まだまだ親切な人がおられる。何卒今の方々に倅せがありますよう。  
心に残る思い出の一つになりました。  
宮川喜美子

館報のひろばでは、「ぶんげいらん」(の作品「短歌・俳句・川柳」などを募集しています。公民館窓口にて提出ください。(紙幅により掲載できない場合があります。次号は3月5日発行予定、締め切りは令和8年1月23日です。  
を痛めたこともありましたが、私たちは激情に支配されることなくしつかり今を生きていかなければと感じたこの数か月でした。力強い歩みを、未来のために！(Y)



